

ビーチバレーのゲーム分析 ―サーブレシーブからの攻撃について―

The analysis of beach volley games ?focused percentage of succeeded attack-

1K05B005

浅熊 祐紀

指導教員

主査 葛西順一先生

副査 矢島忠明先生

1. 緒言

ビーチバレーはオリンピック種目にもなり、近年日本においても注目を集めてきているスポーツである。しかし、その競技人口は少なく、プレーをする環境に恵まれているともいいがたい。また、日本と諸外国との力の差は歴然としており、認知度が高まる一方で、未だ日本のビーチバレーの技術は世界のレベルに及んでいない。その原因としては、身長や運動能力といった身体的不利も一要因として考えられるが、改善が可能な戦術面での違いにも要因があると考えられる。そこで、本研究ではビーチバレーの戦術面において、特にサーブレシーブからの攻撃に注目して、日本とアメリカの試合を比較検討することにより、その差異を明らかにし、勝敗を分ける要因を明らかにすることを目的とする。

2. 方法

2008 年に行われたアメリカ対日本の試合（北京オリンピック）及びアメリカ、日本それぞれの国内大会（ランキング上位チーム）32 セットを研究の対象にした。国内大会の結果はアメリカと日本の国際間での比較のほか、勝ちチームと負けチームに分類し、勝敗別での比較にも用いた。分析内容はサーブレシーブ成功率、サーブレシーブからの各攻撃の決定率に着目し分析した。サーブレシーブは、ビーチバレーは風の状況によってレシーブの強弱や返球位置などが変化するため、レシーブ自体を判断するのではなくその次のセット（トス）の行いやすさに着目してレシーブの A、B、M（ミス）の3段階で評価した。サーブレシーブから

の攻撃は、攻撃によりポイントになったもののみを「決定」とし評価した。攻撃は強打スパイク、ラインショット、カットショット、ポーキーショット、ディープショットの 5 種類に分類し、強打スパイク以外をまとめて軟打と呼ぶこととした。

3. 結果・ 4. 考察

北京オリンピックのアメリカ対日本（ウォルッシュ・メイ VS 佐伯・楠原）は 21 対 12、21 対 15 でアメリカが圧勝している。その要因としては、サーブレシーブサーブレシーブの成功率の高さがあげられる。このことが攻撃合計の決定率の高さに影響したと考えられる。この攻撃の差は強打スパイクではなく軟打合計の決定率の差によるものであり、特にラインショットの差が大きく影響していた。

国内大会におけるアメリカと日本の比較では、サーブレシーブの成功率は、アメリカのほうが高かったが、攻撃は強打スパイク、軟打合計ともに日本のほうが高かった。アメリカは強打スパイクにおけるミスの割合が高く、また、強打スパイク、軟打合計ともにラリーとなる割合が高かった。この比較ではサーブレシーブの成功率が攻撃の決定率に結びついてはいなかった。

国内大会における勝敗比較では、アメリカ、日本ともにサーブレシーブの成功率は勝ちチームと負け

チームで差はなかったが、両国ともに負けチームは M キャッチの割合が高く、それが勝敗に影響していると考えられた。攻撃合計の決定率は両国ともに勝ちチームのほうが高く、それは強打スパイ

ク、軟打合計の決定率にも同様のことがいえた。サーブレシーブの成功率と攻撃の決定率に結びつきは認められず、サーブレシーブの成功率は勝敗にも影響していなかった。

全試合(全 32 セット)の結果において、サーブレシーブ成功率と攻撃決定率の間には相関関係はみられなかった。国内大会の勝敗別で比べると、唯一、サーブレシーブ成功率と攻撃決定率の間に正の相関関係がみられたのはアメリカの勝ちチームであり、アメリカの勝ちチーム以外はサーブレシーブが上手くいったとしても攻撃を決めきれていなかった。今回の分類の中で最も高い水準のプレーをしていると考えられるアメリカの勝ちチームのみサーブレシーブ成功率と攻撃決定率の間に正の相関関係があるということにより、高いレベルにおいてはと良いサーブレシーブが行えた際に攻撃で確実に得点をとることが重要であると考えることができる。もちろんサーブレシーブの成功

率は良いほうが望ましいが、それ以上にサーブレシーブ後の攻撃をしっかりと決めることのほうが重要であると本研究からは示唆された。また、サーブレシーブのミスは勝敗に結びつくと考えられた。

ただし、本研究は国際試合の分析データが少なく、国内大会を多く用いたため、国際間の比較が十分であるとはいえない。今後は国際試合を多く分析することにより強豪国の特徴を調べあげることが重要であると思われる。

5. 結論

北京オリンピック・アメリカ対日本ではサーブレシーブの成功率が攻撃、特に軟打の決定率に影響を与え、勝敗を分けたと考えられる。国内大会においてはサーブレシーブ成功率が攻撃決定率に必ず結びつくわけではなく、良いサーブレシーブが行えた際に攻撃で確実に得点をとることが重要であると示唆された。